

胃カメラ検査の注意事項

上部消化管内視鏡検査は、内視鏡（胃カメラ）を口、鼻孔から挿入し、（以下経口・経鼻検査）、食道、胃、十二指腸を直接観察する検査方法です。

当センターでは生検（組織の一部を採取）は実施いたしません。必要な場合は、紹介状を発行いたしますので、他の医療機関で再度内視鏡を受けていただく事（保険診療）になりますのでご了承ください。

なお、血液が固まるのを防ぐ薬を服用中の方や血液が固まりにくい病気の方は、お申し出ください。

☆検査が原因で鼻出血、腹痛、咽頭痛（喉の痛み）などの症状を生じる可能性があります。数日以内に消失します。まれに出血・穿孔などの重症な合併症の発生が報告されていますが、頻度は全国集計で検査を受けた方の約0.007%です。合併症が起きないように細心の注意を払い内視鏡検査は施行されますが、検査後、吐血・黒色便・持続する腹痛等の症状がありましたらすぐ病院を受診（保険診療）してください。

☆鼻・のどを麻酔して検査を行いますので、誤飲を防ぐため検査後1時間は飲み物または食事の摂取を禁止します。前処置及び検査の影響が残ることがありますので当日は車の運転はお控えください。

※経鼻検査は下記の方には検査はお勧め出来ません。

- ①鼻腔が狭い方や鼻に病気のある方。（アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症など）
- ②出血傾向（血が出やすい、止まりにくい）血液サラサラ内服中の方
- ③鼻痛・鼻血の出やすい方

そのため、経鼻検査はあらかじめ異常が分かっている方の精密検査や強い自覚症状のある方の検査には向いていません。鼻腔が狭いなどの理由でどうしても鼻から挿入できない場合、出血の危険性が高いなど担当医が経鼻検査困難と判断した場合には経口検査への変更をお勧めしたり、検査そのものを中止させていただく場合があります。